

琵琶湖・淀川流域対策に係る取組について ～令和 6 年度 取組報告～

令和 7 年 4 月 24 日
本部事務局地方分権課

「琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会 報告書」等を踏まえて設置された水源保全連絡会議（流域府県市で構成）においては、「いのち育む“水”のつながりプロジェクト」（以下「プロジェクト」という。）に基づき取組を実施した。また、琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会を開催し、同連絡会議の取組等について報告を行った。

いのち育む“水”のつながりプロジェクト（概要）〔令和 5 年度～令和 7 年度〕

プロジェクトⅠ 流域の現状と課題の共有

- ① 水源保全や水循環に関する対策及び将来リスク等をマッピング
- ② 長期的な課題や取組の方向性等について検討・整理

プロジェクトⅡ 水のつながり等の情報発信

- ① 水循環等に関するシンポジウムを開催
- ② 大阪・関西万博において、水のつながりや将来リスク等を情報発信

プロジェクトⅢ 住民等の参画による機運醸成

- ① 他団体と連携し、琵琶湖・淀川水系で清掃活動を実施
- ② 学生など若者世代の参画機会を創出

1 森林整備の効果に関する調査研究〔プロジェクトⅠ〕

森林整備の有無による水循環への影響をシミュレーションし、水源保全に係る森林整備の効果を定量的に評価した。

- ・ 森林現況ケース、森林荒廃ケース、森林整備ケースに区分し、気候変動予測を加味して、1950 年から 2099 年までの基底流出量や湧水流量等を算出。
- ・ 2092 年の湧水流量をみると、森林整備を行うことで、滋賀県（淀川本川）では約 8.6 m³/s、京都府（主に桂川）では約 3.0 m³/s 増加することを確認。

2 万博催事に向けた展示物の制作〔プロジェクトⅡ〕

関西パビリオン多目的エリアで開催予定の「いのち育む“水”のつながりウィーク」（7 月 30 日（水）～8 月 3 日（日））において展示する琵琶湖・淀川流域に関する動画及びイラストパネルを制作した。

【動画概要】

- ・ テーマは、「つながる」から「つなげる」へ。
- ・ 流域の現状と課題を発信。貴重な水を守るために、協力し合う気持ちを醸成。



【イラストパネル概要】

- ・ 水が、人びとの暮らしや生き物、地域資源等とつながっていることを表現。
- ・ 流域各地の魅力を体験していただくため、水を感じるおすすめスポット 8 選を掲載。

3 琵琶湖・淀川流域シンポジウム×ごみゼロ大作戦の開催 [プロジェクトⅡ・Ⅲ]

【日 時】 令和 7 年 3 月 12 日 (水) 12:00~17:00

【会 場】 京都市勤業館みやこめっせ及び会場周辺

【参加者数】 清掃活動：約 110 名、シンポジウム：約 150 名

【プログラム】

12:00	ワークショップ・ポスター展示等
13:30	ごみゼロ大作戦 in 京都 ～万博開幕 1 か月前&大阪ブルー・オーシャン・ビジョン達成 15 年前～ 琵琶湖疏水周辺等にて清掃活動
15:00	琵琶湖・淀川流域シンポジウム「水がつなぐ命」 基調講演「水がつなぐ地球」 高砂 淳二 氏 (自然写真家) パネルディスカッション 【活動紹介①】「ごみゼロ共創ネットワークを世界へ！」 浅利 美鈴 氏 (総合地球環境学研究所教授) 【活動紹介②】「川の恵みを活かす暮らしを目指して」 竹門 康弘 氏 (大阪公立大学国際基幹教育機構客員研究員、 京の川の恵みを活かす会代表) 【活動紹介③】「キャンパスからの脱炭素プロジェクト」 京都工芸繊維大学 環境サークル「あーす」 【ディスカッション】 パネリスト : 高砂氏、浅利氏、竹門氏、京都工芸繊維大学学生 モデレーター: 多々納 裕一 氏 (京都大学防災研究所教授、琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会座長)



4 琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会への報告

【日 時】 令和 7 年 3 月 25 日 (火) 10:00~12:00

【形 式】 オンライン会議

【出席者】 多々納 裕一委員 (座長)、石田 裕子委員 (副座長)、中川 一委員、
津野 洋委員、中村 正久委員

- 【議 事】 （１）水源保全連絡会議の取組について
（２）プラスチック対策検討会の取組について

【主な意見】

（１） 水源保全連絡会議の取組について

- ・ 別の気候変動予測モデルを適用し、例えば琵琶湖の水位がどうなるのか、実際に下流に水を流せなくなることが起きるのか、そして、森林整備でそのリスクが軽減できるのかという話につなげると、下流の府県市にとっても理解しやすくなる。下流のユーザーにとって分かりやすい情報があると、琵琶湖・淀川流域全体の課題として見えてくる。
- ・ 下流での生業、生活、生態系にどのような影響が生じてくるのか、そこと結び付けられると、下流から理解が得られて、施策面や資金面での協力につながってくる。

（２） プラスチック対策検討会の取組について

- ・ プラスチックごみについては世界的に関心が高い。琵琶湖・淀川流域は、淀川水系という現場があり、地域に密着した連携のモデルケースであるので、万博で積極的に情報発信してもらいたい。
- ・ 研修会に参加された方からフィードバックをもらうなど、そろそろ次のフェーズに移る必要があると思う。ごみゼロのアプリのデータを活用して、府県市の協力も得ながら、ごみの散乱状況等をモニタリングしてはどうか。